

平成23年度「子どもの読書活動優秀実践校」 西原小学校が文部科学大臣賞を受賞

去る4月23日(土)は「こども読書の日」でしたが、西原小学校が文部科学大臣から「子どもの読書活動優秀実践校」として表彰されることになりました。(例年、当日に表彰式がありましたが、今回は東日本大震災の影響で表彰式は延期になりました。)

西原小学校は、多くの学校図書館ボランティアが読み聞かせや本の紹介活動に取り組むなど、子どもたちの読書活動の推進に熱心に取り組んでいます。

ここでは、文部科学大臣賞を受賞した西原小学校の取り組みを紹介します。

学校図書館ボランティア「ムーミン」による朝と昼の読み聞かせ

朝の読み聞かせは、午前8時15分から8時30分までの15分間で、年間延べ200回近く各教室で行われています。

1学級の児童数が多いため、大型絵本を使ったり、紙芝居を用いたりと分かりやすい読み聞かせになるよう工夫されています。

また、クイズを取り入れたり、登場人物のマスケットを制作して使ったり、朗読劇風にしたりと、それぞれのボランティアの個性を生かして

取り組んでいます。昼休みの読み聞かせは、さまざまな本に興味をもってもらいたいという思いから、学校図書館を会場に開催しています。

ボランティアには父母はもちろん、祖父母などが参加する年もあり、さまざまな読み手が子どもたちにもたに読み聞かせができるよう工夫がされています。



ボランティアの読み聞かせに耳を傾ける児童

学校図書館の分館化

西原小学校は児童数1000人を超える大規模校ですが、学校図書館の面積は狭く、全児童が学校図書館を昼休みに利用するのは難しい状況でした。

そこで、学校図書館司書教諭の計画で推薦図書を中心に学校図書館の本や市立図書館の本を各学級に配架するなどして、学級文庫を充実させています。

さらに、平成21年度には学校図書館ボランティアの協力を得て、階段

の踊り場の空きスペースを利用して書棚やじゅうたん、テーブルなどを設置し、学校図書館の分館化を図り、学校図書館から遠いクラスの子どもの児童もいつでも読書に親しめるようになっています。



空きスペースを利用した図書コーナーで読書を楽しむ児童

「西原小推薦図書100」 100%読破を目指した読書指導

司書教諭が中心となり、全校体制で「西原小推薦図書100」を選定しています。6年間で100冊読めるよう、発達段階に応じた推薦図書が決められ、それぞれの学年の推薦図書を読破するよう読書指導を行っています。

推薦図書は名作と呼ばれる作品から最近の作品まで、児童の発達の段階とジャンルバランスを考慮して3年間に1回見直しを行い、改善を図っています。

毎年、推薦図書読破率調査も行っています。学校図書館ボランティアも、学校図書館に推薦図書のコーナーを作ったり、推薦図書に関する読書クイズを作成して掲示したりと、子どもたちが本を手にとる工夫が凝らされています。

進む読書活動の充実

今回、文部科学大臣賞を受賞した西原小学校に限らず、市内各学校ではさまざまな読書活動に取り組んでいます。

市立図書館も学校図書館用の本を準備して貸し出す「学校図書館支援事業」を実施したり、司書の資格をもつ職員が学校訪問してブックトークを行ったり、積極的に小中学校の読書活動をサポートしています。

小学校においては今年度から教科書が新しくなりましたが、国語の教科書にはたくさんのお本が紹介されています。

文部科学省が読書の果たす役割について強調したことが、教科書や授業に反映されてきています。

ぜひ「家読(うちどく)」を

県教育委員会でも、家族で読んだ本について話し合ったり、好きな本について紹介し合ったりするなど、読書習慣を共有してコミュニケーションを図ることで、読書活動の活性化と家族のきずなを強める取り組みとして「家読(うちどく)」を推進しています。

ぜひご家庭で、家族で本を読む時間を設定するなど、読んだ本について語り合う時間をとってみてはいかがでしょうか。

問い合わせ

学校教育課 学校教育係

TEL (98) 7113